

イントラネットを利用した校内 IT 化への取り組み

- 「福養 Web」は職員室の連絡黒板 -

福井県立福井養護学校 教務部情報管理係 高橋 浩人

(spleen@mx1.fctv.ne.jp)

info@fukui-sh.ed.jp

<http://www.fukui-sh.ed.jp>

キーワード：イントラネット，ホームページ，校内メール，連絡，情報発信，IT 化，教師への支援

概要：本校では、イントラネットを整備し、各職員室と事務室、特別教室等のパソコンで閲覧できる『福養 Web』というホームページを開設。日々の連絡や、児童生徒の情報、各校務部の情報発信、教育実践研究の紹介など、校内の掲示板として活用されている。各職員は、ほぼ 1 人 1 台のノートパソコンを保有（自費）しており、それぞれ都合のいい時間にアクセスし、必要な情報を閲覧できるようになっている。あわせて、校内メールも利用できるようになっており、管理職からの指示や職員間の連絡は、すべてメールで配信されている。このことにより、職員朝礼の廃止、会議や連絡会等の軽減、紙資源の削減などに貢献している。

1. まずはネットワーク作りから

本校は肢体不自由養護学校で、小学部・中学部・高等部の 3 学部と寄宿舎があり、児童生徒数 66 人、教職員 103 人(寄宿舎指導員などを含む)の学校である。

校内ネットワークの整備は、1998 年より始めた。当初、職員室にはまだプリンタが設置されておらず、主にプリンタの共有が目的で、パソコン室まで LAN ケーブルを伸ばしたのが始まりだった。これをきっかけに、職員の間でネットワークの利便性が理解されはじめ、校務で作成した文書やデータを共有、管理するための委員会が発足。職員室内に HUB を設置することで、徐々に私物のノートパソコンを接続する教師が増え始めた。

2000 年に福井県の「学校特色づくり推進事業」からの支援を受け、別棟の図書室に CATV のインターネット回線が敷設されたが、インターネットを利用するために、車いすの児童生徒が別棟まで移動するのは煩雑である。そこで、校内 LAN を本格的に整備することにした。

E スクエア・プロジェクトの津市立瀬田小学校の事例を参考に、その当時、視聴覚教育担当だった高橋と数人の協力を得、手作りで LAN 敷設工事をおこなっていった。2001 年の 5 月には、図書室とパソコン室、3 つの職員室、保健室、事務室、校務員室にまで広がった。

同時に、インターネットを授業で活用するための講習会を夏休みに企画、これを機に職員の大半が常時私物のノートパソコンを持ち込んで活用するようになっていった。(写真 1)

2002 年 5 月には、県立学校のすべてに光ケーブルの回線が敷設され、ルーターを設置して全ての端末でインターネット接続を共有できるようになった。この時点で職員の実に 9 割がノートパソコンを持ち込むようになり、データ共有のためのファイルサーバも設置。教務部内にデータ管理や職員のネットワーク接続をサポートするための情報管理係も新設された。



写真 1：職員室の様子

2. イン트라ネットサーバの設置

校内 LAN が充実し、大半の職員がノートパソコンを持ち込むようになった時点で、1 つのアイデアが浮かんだ。本校のように職員数が多く、職員室も分散しているような環境では、日々の連絡が徹底しなかったり、校務部や研究グループの打ち合わせの招集、会議資料の配付が煩雑であったりする。これを一般企業がやっているように、ネットワークを利用しておこなうことにより、解決できないか？それが、『福養 Web』が誕生した発端だった。

職員室内のパソコンをイントラネット用のサーバーとして利用した。Windows98 で動いている古いマシンに BlackJumboDog(copyright(c)1998/5. .by sin@SapporoWorks)をインストールして運用。このサーバーソフトはフリーウェアであるが、Web サーバー、メールサーバの両方の機能を有し、操作も簡単であるため重宝している。校内メールについては、全職員分のアカウントを用意、別名指定により、全員配布や校務部や研究グループなどへの発信もおこなえるように設定し、各職員のパソコンにアドレス帳をインポートした。BlackJumboDog は、各機能の利用者を IP アドレスで限定できるので、児童生徒が利用するパソコンからはアクセスできないようにしたり、外部への情報漏洩への対策も講じることができる。

3. 『福養 Web』の運用

(1) 運用初年度の内容(2001年5月～2001年7月)

運用開始当初は、職員のパソコン接続率は6～7割程度。校内のパソコンに堪能な教師に呼びかけて、校務部や研究グループのホームページを作成してもらった。思いのほか反響があり、夏季休業中におこなったホームページ作成の講習会を機に各コンテンツが充実、更新も頻繁におこなわれるようになった。(図1)

初年度の内容としては、連絡としての機能よりも、各部、グループ、個人の趣味などの情報発信としての意味合いが強かったが、イントラネットの仕組みや有用性を理解してもらう上で効果が大きかった。



図1：運用初年度のトップページ

(2) 2年目のリニューアル(2002年7月～)

校内LANの拡張により、各職員室、事務室、舎務室など連絡を必要とする箇所には福養Webの閲覧が可能な環境が整い、いよいよ本格的にイントラネットの運用が可能となった。そこで、教務部からの情報発信として、より日常に密着した形で内容の一新を図った。

日々の予定、各種提出物のメ切り、出席簿の記入見本、研修会の案内、事務室からの連絡など、職員室の黒板に記載するような情報はすべて網羅することを心がけた。トップページは日に2～3度更新され、二人の職員が管理運営にあたっている。(図2)

これにより、職員朝礼を毎週開くことをやめ、校内の連絡はトップページに掲載するようにした。職員には1日1回は、閲覧してもらうように呼びかけ、並行して校内メールを活用することにより、連絡会や打ち合わせの軽減に役立った。また、各部のページにも見直しがなされ、研究会の報告や教育実践の紹介など、従来印刷して配布していたものをWeb上への掲載で済ませたり、図書日より、保健日よりなど、児童生徒や保護者への配布物も掲載、職員への配布をやめるなど、紙資源の使用削減にも成功した。



図2：現在のトップページ

4. 成果と課題

イントラネットのコンテンツを充実させていくには、情報発信者である教師各々がページを作成するスキルを身につけていることが重要である。毎年、夏季休業中におこなわれている校内パソコン講習会では、ホームページ作成の講習を取り入れるようにし、今年度は、のべ11日間にわたり講習会を実施、全職員の約7割が参加した。『福養Web』は校内のIT化、ペーパーレス環境を進めるために企画したものであるが、結果として職員のITリテラシー向上へのきっかけとしても役に立った。

今後は、会議資料そのものを掲載し、掲示板(BBS)を利用した会議室を企画することで、より効率的な校務運営ができるような仕組みを考えていきたい。